

摘 録

○横山又次郎 美濃第三紀層の軟體動物化石

M. Yokoyama—Molluscan Fossils from the Tertiary of Mino. Jour Fac. Sci. Imp. Univ. Tokyo. Sec. 2. Vol. 1 pt. 7, 1926.)

美濃の南東部に動物及植物化石の多きことは以前より聞えてゐた。すでにブラウンス、吉原及び岩崎、松本諸氏の報告がある。本報文は主に地質調査所の石井技師が採集したる材料を扱ふたもので土岐郡瑞浪明世附近及び惠那郡本郷岩村遠山附近に於て得た。種数は三十七にすぎぬ。其中確實なるもの三十五種で二十一種は現在棲息するもの残り十四は現在生殘しなざるもので其割合は全體に對して四十パーセントを爲る。此十四の中二は中新世に知られ七は鮮新世に四は中新鮮新兩世に通ずる。以上により此地層は鮮新と斷ざるを得ぬ。しかし常磐の白土、東京以南の武藏野系下部より明かに古く信州遠州紀州雲州等の鮮新世層に近い故に鮮新世下部と考へられる。新種は *Cylindrina affabilis*, *Cylindrina corpulenta*, *Cerithium ishianum*, *Soletelina minoensis*, *Crenella fornicata*, 重要な化石は *Vicarya b-culum* に著者が以前に *Cerithium* なりやうもの。シヤバの *Vicarya callosa* とは別種なりと信ぜらる。(横山)

摘 録、新著紹介

○横山又次郎 上野其他の諸國の新第三紀貝類

(M. Yokoyama, Neogene Shells from Kozuké and other Provinces) 同じ大學紀要の同冊二三〇頁より二四七頁まで東京帝國大學地質學教室にある標本を同定したる結果を表示す。

化石産地は一、上野碓氷郡磯部板鼻間 二、同郡細野九十九川畔 三、北甘樂郡西牧村市野萱 四、北甘樂郡下仁田 五、相模足柄上郡矢倉澤地蔵堂 六、駿河駿東郡小山 七、伊勢一志郡柳原貝石山 八、隱岐隱地郡都萬村釜谷 九、同周吉郡中村伊後中ノ浦、右の内新種は *Crenella peramoena* 唯一にて第八の産地のもの。(横山)

新 著 紹 介

○日本地史の研究 早坂一郎著 菊版二五四頁 圖版

(コロタイプ)二六葉 索引付 大正十五年四月發行
東京内田老鶴園 定價五圓五錢。

先に大正十二年著者は別の本屋から日本地史の研究を出してゐたが震災で絶版になつたので内容を大いに改訂し其後の研究を追補し更に圖版は全然一新して本著を發行するに至つた。今日までの日本の地史學序學に關する種々なる専門的部門的研究報告は澤山にあるがさてまとつた一貫した著述は缺いてゐた。日本地史に就ての書がないといふ事は

二〇九

五九

一、我國はこゝろ我國にまつてまことに残念であつた。しかし今此好著を得て愉快此上なしである。地學專攻の士以外にも好む愛書の士はかういふ著述を長く求めてゐたのである。今や本書を以てどこへも推薦することができける事は實に愉快である。本書の強みは其圖版にある。立派なコロタイプ日本の産化石の圖はそれだけでも長く多くの人より求められてゐたものが満たされたといふ氣がする。(M)

〇セメント代用土と其用法

曾我奎祐著 菊版本文

二四九頁 東京早稻田大學出版部發行 大正十五年七月 定價二四八十錢

著者は茲に「土石と其利用」を著し、耐震耐火的建築土木原料の一斑を叙述して現代に於ける文化的施設の原料が如何なるものかを明かにした。今復たセメントを材料とした建設を爲すに當り、經濟的であり且つセメントだけでは化學的及物理的崩壊を來たすのを防ぐことの出来るセメント代用土に就いて詳細に説述した本書を世に供して、如何にこの代用土が必需品であり、如何なる代用土類があるかを明かにした。我國に於けるセメント代用土と云ふのは玄武岩の分解物である玄武土、安山岩分解物、火山岩屑、凝灰質砂、及花崗質砂であつて就中玄武土は主として佐賀縣東松浦郡で採集され其年産額は三十萬圓内外に達して居るものである。本書述ぶる所はセメント代用土利用の沿革、性状、産地及産出状態、生産状態を初めとし、採掘及製粉、試験法及規格等の工業的記述に入り、最後に代用材料たるセメント、石灰、砂、砂利、

〇日本國誌資料叢書

四六版

太田亮著 東京 磯部甲陽堂發行

甲斐 頁數三八〇 大正十五年一月 定價二四三〇

三河 頁數三四五 同 年四月 定價二四

尾張 頁數五三九 同 年四月 定價三〇

茲に本書上に再度紹介した國誌資料叢書は其の後引續いて同じ内容形式で地名、沿革、民族、神社、佛閣或は寺院雜載に章を分つて居る。右三卷のうち、三河、尾張は現時殷盛を極めゆく愛知縣であるから、この地理學の著しい現象を歴史的に考究するのは甚だ有意義なこと、其の資料としては甚だ豊富な材料と云はねばならぬ。

〇地理教材研究第八集

日知書店發行

大正十五年六月三十日 定價貳圓參拾錢

教材研究もこれで八集になつた、名古屋、京都、静岡、明石、鹿兒島、大邱等の都市の地理學考察に充ちてゐる、誠に教材研究の名にもふさわしいので學問員、洋書部片のと取付

町の使命のごとき、其の好標である。地方地理學研究者の好侶伴として推薦する。(藤田)

○天氣と天氣豫報

提問百樹著 古今書院發行 大正十

五年七月發行 定價壹圓貳拾錢

中央氣象臺技師梶岡氏の著である、忙中の閑をのすんで極めて平易に通俗的に天氣と其豫報に關する説明を試みられたものである、陣風線といふ近頃用ひられる言葉に對して著者は不連續線といふ言葉をを用ひて低氣壓との關係をのべておられる、通俗的といつても専門家の本である、勿論六ヶ敷いところがある骨がある、氣象を教授する人に尤もよい參考書として一本をすゝめる。(藤田)

○登山家山嶽地圖

東京神田今川小路二ノ五九段書房地

圖研究會發行

一、立山方面及其山頂。二、白馬嶽方面及其山頂。三、靈山身延諸坊附近、以下月刊

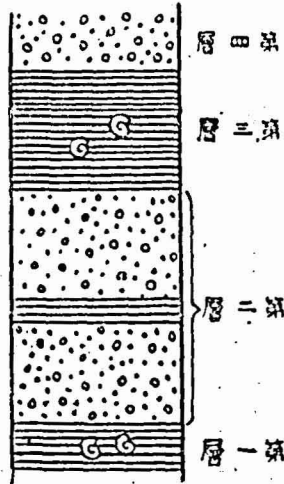
會員募集で一ヶ年に十二部、四圓八拾錢で頒布する、既刊の一は登山案内を附けた十萬分一及二萬分一の地形圖、二は同様に二萬五千萬分一と十萬分一の地形圖で、詳密正確なことに於て近來稀に見る山岳圖である、この種の旅行案内圖が弘く利用される程に、日本一般の旅行家が地圖を見る眼識の上達せんことを祈るもの豈評論者一人のみならんや。(F生)

雜報

○西宮、香櫨園附近、洪積層と其の化石

兵庫縣西

宮市の西方、香櫨園から三町許り西にある大社村字森具では洪積丘陵地の端を切り探つて住宅地となしつゝある。この切り取りのため約十五米もあらうと思はれる断崖が出来て、次の如き地層を現はしてゐる。



第一第二層は含化石層
第三第四層は無化石層

第一層は青綠色粘土層、第二層は青綠粘土の薄層を夾める花崗質白褐色砂礫層、約十米位、第三層は五米内外の青綠粘土層、第四層は砂礫層である。走向北三七度乃至六十度東、傾斜東南に五度乃至一〇度。余は昨冬、春本、田久保、原口三村の諸氏と共に、第一層、第三層から次の介化石を採集した。

第一層、セタシヤミ Corbicula cf. sandai Reinb (夥多)